

ウラジャノメ *Lopinga achine achinoides* (Butler)

【選定理由】

本種は愛知県では1998年6月6日に北設楽郡旧富山村（現豊根村富山）の漆島川の道路脇の崖から4♂が初めて採集された（白井, 1998）唯一の記録であった。2016年からの宮本らの調査により北設楽郡設楽町岩古谷山で新たに本種が確認された（宮本, 2017）。近隣の静岡県佐久間町から記録されており、本州中部の産地での最南端の貴重な記録である。

【形態】

前翅長26mm程度。翅表はくすんだ灰褐色、外縁近くによく目立つ眼状紋がある。裏面は淡い灰褐色で翅表と同様の眼状紋があるほか、その紋列の内側に白い線がある。このような斑紋の特徴は近似種にはないことから同定は容易である。♀は♂よりもやや大きく、全体に色彩が淡く、眼状紋が大型となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根村富山（旧富山村）、設楽町から記録がある。近隣の岐阜県東濃地方からは未知。長野県木曾郡では大桑村野尻が最南端の記録である。開田村（現木曾町）では比較的採集例が多い。

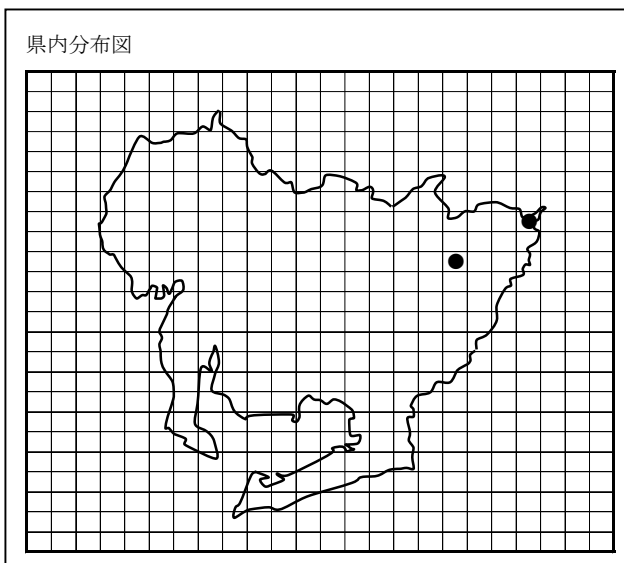
【国内の分布】

北海道（利尻島と道央～道東）と本州に分布、長野県を中心とした分布圏では産地が比較的普遍的で、個体数も多いが、それ以外では局地的。西日本では島根県と山口県の県境の恐羅漢山付近にみに生息する。このような特異な分布をしており、愛知県の記録は重要である。

【世界の分布】

国外では朝鮮半島からユーラシア大陸の北部に広く分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

本種は、中部地方では、落葉広葉樹林帯の上部の比較的明るい針葉樹林や広葉樹林の林床に生息し、低山には生息しない。旧富山村の産地は標高約500mの渓谷で針葉樹林帯の中を林道が貫いており、路傍の崖地から採集された。中部地方の最南、かつ最低標高の記録である。

年1回の発生。中部地方では6月中旬から見られる。この点からも愛知県産はやや早い時期の採集例であり注目される。草地を低くゆるやかに飛び、下草の葉表によく止まる。花を訪れる習性は乏しい。長野県での観察によれば、産卵は7月、地上に放卵する習性がある。卵は10日ほどで孵化し、年内に3～4齢まで成長して越冬する。翌春冬眠から覚め摂食を開始し、老熟すると食草を離れ、蛹となる。愛知県では、幼生期の観察例はない。

【現在の生息状況／減少の要因】

2017年に記録が発表されて以来、多くの採集者が訪れるようになっており、保護の必要性がある。

【保全上の留意点】

崖地の表面をコンクリートなどで覆うなどのことを控えることが望ましい。また樹林が切り開かれて明るくなりすぎても、繁茂して暗くなり過ぎても生息できなくなるので注意が必要である。

【特記事項】

東北地方では宮城県と山形県の県境付近に生息するほかごく少数の産地しか報告がない。中国地方唯一の産地である恐羅漢山では標高1,346mの山頂付近にのみ生息する。ここは林床の草が乏しく、成虫は樹林の上を飛ぶ習性がある。

【引用文献】

- 白井和伸, 1998. 愛知県富山村でウラジャノメを採集. 虫譜, 37 (1): 15.
宮本昌幸, 2017. 愛知県のウラジャノメの新産地について. 月刊むし, 559: 27-29.

(2009年版を一部修正)